

---

# 監視カメラは見た！

三代渡吉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

監視カメラは見た！

### 【Nコード】

N6543F

### 【作者名】

三代渡吉

### 【あらすじ】

おはようからおやすみまで、監視カメラはいつだってあなたを見守っています。

俺は監視カメラ。

いつだってみんなを監視しているけど。

本当は見守ってるって言い直して欲しいと思ってる。

深夜は、とつても暇が大変な事態が起きるかのどつちかだ。

コンビニの監視カメラっていうのは、いつもそういう微妙な位置に立たされている。辛いがそれが仕事だ。

今日はバイトのカナコさん（21）が担当だ。

結構好みだけど、まあ監視カメラな俺には儚くも叶わぬ恋である。そんな日、やたら下が薄着な男が店に現れた。

このクソ寒いのになんで薄着してるんだろうと思ったら、ソイツはジャケットをいきなり脱いだ。下は素っ裸だった。

そして、又の間をこれ見よがしに強調しはじめた。

うわあ。

俺は気持ち悪さに萎えて目を閉じた。

いや、ここで逃げていてはいけない。なんとかしなくては……カナコさん（21）が危ない。

そうだ、ちゃんと録画すれば警察がきつと捕まえてくれる。

そうすれば、きつとカナコさん（21）の不快感に耐えた努力も報われるだろう。

俺は、勇気を出して目を開けた。

うわあ。

目を閉じた。

翌日。

少し身体を直してもらった俺は元気一杯。今日も頑張るぞ！  
しかし、朝からよく人がくる……。

学生が多いのはわかるが、なんでこんな時間にコンビニにくるんだ？ という奴がいる。

特に、今こうして朝っぱらから文句をタラタラ垂れているジジイ、これがムカツク。

ああ、どうして俺は首の動くタイプに作ってもらえなかったんだろう？ ツバがかかろうものなら許さないぞ。

イライラしていると、ジジイが俺を向いてなんか指さしてきた。

おいおい、テメエの指垢なんざみたくねえよ。

「こんなものに金を使っておきながら、どうして客のサービスに金を使えないんだ！ このクズめ！」

「いや、こちらは店を守るために……」

「客の快適さを守れなくてどうすんだよ！ 金儲けのことしか考えてないからそんなことがいえんだよ。お前バカか？ バカか？」

あー、うざったいな、このクソジジイ！

そろそろウザクなってきた俺は、丁度真上にジジイがいたので、自分を固定していた金具をそっと外した。

パカン。

シュルシュルシュル、ゴチーン！

コードが延びきったうえにぶつかったおかげで、俺も体中相当痛かった。

でも、ジジイもこれでようやく静かになった。

ふう、これでこのコンビニもまた落ち着いてくれるな。

俺はそう安心したら、つつい眠気に負けて深い眠りに落ちてしまった。

そのまた翌日。

取り付けなおしてもらって、ついでに汚い血も拭き取ってもらった俺は今日も元気一杯。

朝は雨のためか客も少なく、とっても幸先の良いスタートだ。

結局、なんかコンビニの端末が詰まったという以外に問題はなく、

至って平和。

しかも午後からはカナコさん（21）がバイトでやってくる。これを喜ばずにいられるものか。

そして、午後の人がやってきた。予定通りカナコさん（21）もいる。

俺の仕事もこれではかどるってもんだ……と思ったら、問題が起きた。

そこら中にピアスをつけた金髪の男が、ナンパを始めやがったのだ！

「ヘーイ、今夜暇？」

ちよつと古い文句がまたムカツク。

クソ、俺のカナコさん（21）があんな男にたぶらかされたらダメだ。

「コ、コココココラ！」

「あん？」

俺は勇気を出して、声をあげた。

「そそそそそつ、そつその子は僕が先に好きになった人だ。お前みたいなのには渡さないぞ！」

「何ビビってんのお前？ 怖いイヤならいつそ黙らしてあげようか？」

と、拳をポキポキさせながら、僕の方へと男がやってきた。

まずい、壊される……！

誰か助けて……。

「えいつ」

ボカツ！

男は、カナコさん（21）に背後から殴られて、白目をむいて気絶した。

ざまあみろ、このクソボケバカアホハナクソマヌケゴミカス男めが。ハハ、ハハハハハ。

「監視カメラさん……」

カ、カナコさん（21）がこっちを見ている。なんか目が虚ろだ。  
「さっきの言葉、本当ですか？」

俺は、自分の身体がスパークしてるのを感じた。ああ、何か返さなきゃ、えっと、えっと。

「ほ、ほほほほほほ、本当でちゅ！」

噛んでしまった……。

「まあ、可愛いプロポーズね」

カナコさん（21）が微笑みながら、脚立で僕のところまであがってきた。

そして、僕に熱いキスを……。

ハッ。

時刻は五時。

夢だったのか……せつかくカナコさん（21）と話せたのに。

なんて、監視カメラが話せるわけないんだけどね。

それにしてもイカンイカン、また居眠りしてしまった。これじゃ監視カメラ失格だよ、もっとしっかりしないと。

「どうだね？ 石橋くん」

「ダメっすね、一応つきましたけど、こうしょっちゅう消えちゃうんじゃない、寿命かもしれないっすよ」

店長と石橋フリーターが何か話している。

「金がかかるけど仕方ない。香夏子さんの事件の時もこれのせいで犯人逃しちまったからな。変えよう」

「じゃあ、とりあえず今からでも外しておきますね。今日は自分達の目で注意するってことで」

あれ？ どうして俺を外すんだよ。

さっき取り付けたおしてもらったばかりだろ。

おい、やめろよ、やめろって。

お前等は俺がいないと何も出来ないくせに、おい、何すんだ。コラやめろ。

プチン。

俺は監視カメラ。

いつだってみんなを見守っていた。

今は、同胞の悲鳴しか聞こえない

この島は地獄だ。

（後書き）

ジャンルが結局その他になってしまふ。あと監視カメラの構造知らないで書いてしまったのが反省点。見切り発車はよくないけど、リアル構造を考えると話を根本から変えないといけないところもあるので。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6543f/>

---

監視カメラは見た！

2010年10月8日15時16分発行